

I 理念・目的・教育目標

日本では文部科学省管轄の学校保健があるが小学校、中学、高校、大学と途切れる。また、卒業後は厚生労働省管轄の職域保健、老人保健と分割されている。そのため、同一人の成長に伴う継続的な健康状態の観察、健康管理が難しいという欠陥がある。健康増進法はこの欠陥の是正しようとしているが、非常に困難である。

慶應義塾の一貫教育、卒業後の連合三田会組織は同一人の成長に伴う継続的な健康状態の観察、健康管理を可能にする世界でも稀有な枠組みである。その潜在する力を完全に活用することができれば、小児期からの老齢にいたるまでの、生活習慣病の予防についての世界に貢献できる研究が可能となる。

慶應義塾高等学校での健康診断記録は1950年から全て保存されており、これを利用して大規模なコホート研究に着手した。1960年代には先進国中で最低であった日本の平均寿命が20年ほどで世界一になったかを説明しうる成績が得られるであろう。現在のところ、卒業生のアンケートの回答率は30-40%前後であり、さらに向上が必要である。

慶應義塾において学生が体得すべきものとして、学問、語力、コンピュータ使用力、体力、就職適応力などが一般的な考えであろう。しかし、これらは東大でも、早稲田でも、上智でも体得が可能であるし、場合によっては慶應義塾で学ぶよりさらによく体得できるかもしれない。慶應義塾においては高い健康指向性を体得することを目標にしたい。慶應義塾の卒業生は採用しても、結婚しても健康にやってくれるということで社会から高い評価を得られるようになればと考える。

以下のように、講義、健診から選択されたものへの生活習慣病の学習会を行っている。

1. 日吉、三田の学生に対し保健についての講義
2. 通信教育の夏季スクリーニングでの保健衛生の講義
3. 健診で発見された高血圧、高脂血症、肥満などの学生、生徒に対する教育講演会
4. 児童の保護者への健康管理に関する講演
5. 文化祭での食品提供予定者への衛生講習会

食品提供者への教育、地域の医師会における生涯教育、海外に赴任予定者、赴任中の社会人への健康教育も行っている。

II 教育研究組織

慶應義塾では非常にユニークな組織であり、小学校から大学、大学院までの児童、生徒、学生を対象としている。慶應義塾のキャンパスが分散しているため、保健管理センターの人員も東京大学と並んで大きなものとなっている。現在は内科出身医師9名、小児科出身医師5名、精神科出

身医師2名で教育、研究、診療活動を行っている。この規模が適正であるかは議論の余地がある。

また、保健管理センターと他部門との連携にも問題がある。

理論的にはこのような全塾的な縦割り、横割りでない組織が有用であろう。しかし、現実的には大学は学部の教授会により運営されており、それに参加して、発言する機会がないための弊害がある。教育、研究においても保健管理センターとは連携がほとんどないのが現状である。また、定期健康診断も学事と連携していないため、授業と重なり、学生に不便な思いをさせている。また、学生が受診せず、後日、結核を発症した事例もある。また、心臓突然死を予防できない可能性もある。これが、危機管理からみてどんなに危ないことか気づいている人がいない。また、各学部、一貫校が学事を予定するため、全慶應義塾でみると非常に非効率的な運営がされている。

対策としては学部自治、一貫校の自治を取りまとめ、管理する強力なリーダーシップを持った危機管理などに対応する副学長、および、それを補佐する副学部長、副校長をつくることではないであろうか。

IV 研究活動と研究体制の整備

IV-1 研究活動

(1) 論文等研究成果の発表状況

塾生・教職員および保護者の協力を得て、若年者・中高年者の生活習慣病や感染症の予防など身体的問題と精神の健康に関する研究を主として行っている。その結果を学生、教職員の健康管理にフィードバックしている。主な発表の場として全国大学保健管理研究会、日本学校保健学会、日本内科学会、日本小児保健学会などである。著書、英文論文、和文論文、国外、国内の学会で発表を行っているが、年間の発表状況は、著書23件、論文156件、学会発表120件（2002年度実績）であり、保健管理センター年報に記載している。また刊行物「慶應保健研究」を発行し、研究内容などを掲載している。

X 学生生活への配慮

(5) 学生の心身の健康保持・増進への配慮

保健管理センターでは学生の健康保持・増進のために、主に以下の事業を行っている。

1. 健康診断の実施

学校保健法に基づき、健康診断を実施している。定期健康診断は毎年4月、5月に、日吉、三田、信濃町、湘南藤沢地区で実施。検査項目は身長・体重、血圧、検尿、視力、内科、胸部X線、心電B型肝炎抗体・肝機能、抹消血・腎機能・肝機能・血糖（医学部のみ）、ツベルクリン反応検査の項目が追加される。受診状況（2003年度実績）は大学学部学生の受診者18,284名、（受診率65%）、大学院学生の受診者2,397名、（受診率65%）であり、例年この水準を推移している。

定期健診結果要管理者のフォローアップを行っている。実施項目は、面接、血圧（再検、24時間血圧または家庭血圧）、2次検尿（定性、沈渣）、胸部X線、心電図（安静時、ホルター心電図、心エコー、運動負荷検査）、血液検査（血圧管理、腎尿管理、糖尿管理、肥満管理）である。

受診者の延べ人数(2003年度実績)は3,905名である。また、健診結果要管理者を対象に高血圧、高脂血症、肥満などの教育講演会を実施している。

他に特殊健康診断を行っている。特殊健康診断は有機溶剤取扱者健診(日吉地区と信濃町地区、受診者は約774名)、電離放射線取扱者健診(日吉地区と信濃町地区、受診者約1,001名)、特定化学物質取扱者健診(日吉地区と信濃町地区、受診者約516名)を実施している(受診者数は2003年度実績)。

2. 診療業務

学生の健康診断と健康管理に連結する診療業務は、日吉、三田、信濃町、湘南藤沢地区で毎日実施している。医師は専任医師11名、パート医師若干名で担当している。学生の年間受診者数(2003年度実績)は、日吉地区2,186名、三田地区1,170名、信濃町地区1,579名、湘南藤沢地区956名であるが、例年この水準を推移している。

3. 健康教育

日吉、三田地区の学生に対し、保健衛生の講義2単位(選択科目)を開設、健康についての正しい知識の教育を実施している。文化祭の食品提供者に対し事前に衛生講義を实际している。

4. 環境衛生

キャンパスの環境衛生を維持するために、各キャンパスで教室、食堂の環境調査を実施している。教室などの環境調査は年2回実施し、実施項目は空気環境、照明環境、騒音環境、落下細菌、熱輻射である。食堂等の調査は年1回実施し、実施項目は厨房巡視・聞き取り調査、微生物検査で、実施後、食堂管理責任者と面接、指導を行っている。

以 上

